

平成17年度 山形市教育研究所 情報教育推進に係る調査研究報告  
 児童生徒の情報活用能力に関する実態調査報告

情報教育推進調査研究会

はじめに

本調査は、これからの社会において「生きる力」の重要な一要素である「情報活用能力」(スキル・モラル)の実態、および家庭における IT 環境やその利用状況等について調査し、学校における情報教育の推進に資することを目的とし、市内小中学生を対象に平成14年度から継続して行っている。

昨年度の調査結果の分析においては、児童生徒のスキルが学年進行とともに着実に向上し、インターネットが調べ学習等に活用されることがより身近になったことが指摘された。反面、ブログやアバターなどの新しいコミュニケーションツール利用の実態が気になるところであり、子どもへの「情報モラル教育」を徹底しないと、こうしたツールが非行や犯罪の温床になるのではないかと危険性が指摘された。これをふまえ、今年度は、児童生徒を取り巻く IT 環境の推移や、ネットワークにおけるコミュニケーションツールの状況等を考慮し、調査項目や選択肢を再検討し、調査を実施することとした。

調査の概要

(1) 調査期間

平成17年11月11日(金)～11月22日(火)

(2) 調査方法

総合学習センターアンケートページへのオンライン入力による直接回答

(3) 調査対象

小学校男女各5名・中学校男女各10名を抽出

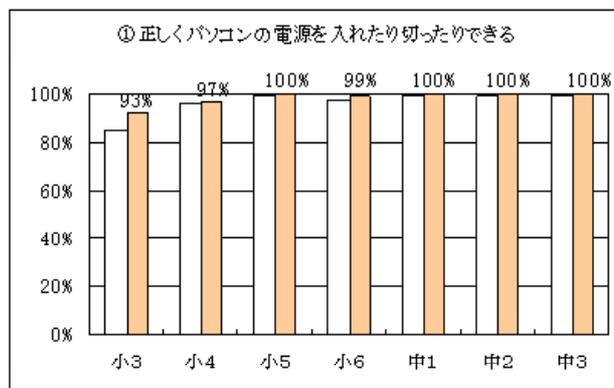
(4) 調査回答数

校種	学年	男子	女子	合計
小学校	3年生	178	169	347
	4年生	179	182	361
	5年生	186	176	362
	6年生	188	182	370
	合計	731	709	1440
中学校	1年生	146	155	301
	2年生	152	149	301
	3年生	148	154	302
	合計	446	458	904

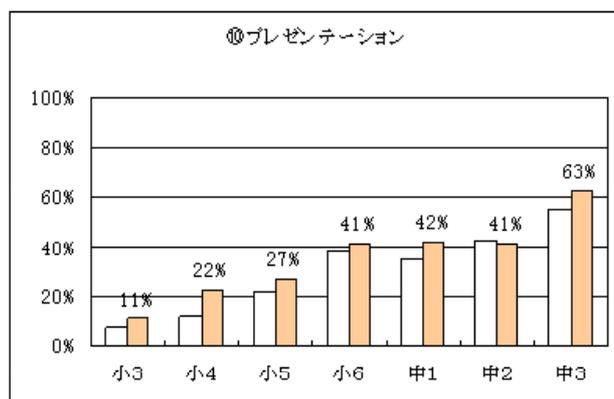
調査結果(抜粋)

2004年度 □ 2005年度 ■

質問1 できることをすべて選んでください。

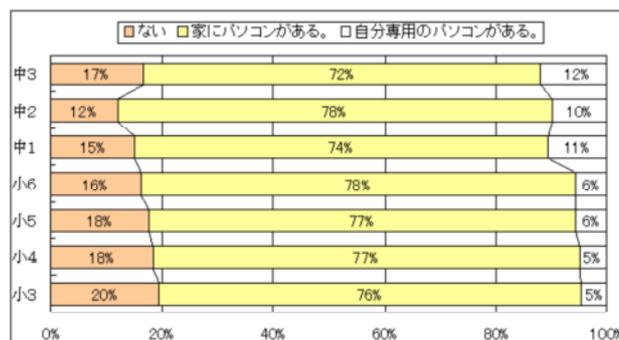


質問4 授業で学習した内容を選んでください。



プレゼンテーションソフトウェアは、家庭で利用されることはほとんどないため、授業で指導の結果を反映している。発表のためのツールとして学習に積極的に取り入れられていることがわかる。

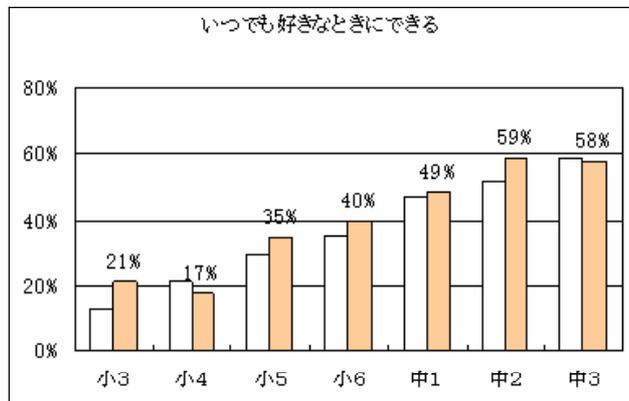
質問5 家にパソコンがありますか。



家庭への普及はどの学年も80%を超え、自分専

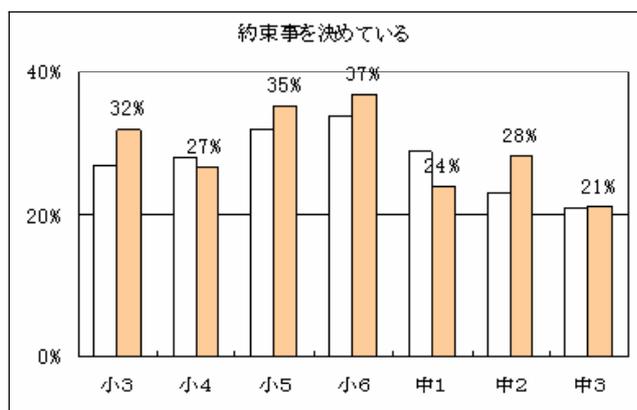
用のコンピュータを持つ子どもも学年が上がるにつれ多くなっている。

質問9 あなたは家でインターネットができますか。



「いつでも好きなどきにできる」という数値が学年が上がるにつれて多くなり、半数を超えている。

質問11 家でインターネットをするときに、家の人と約束事を決めていますか。



学年が上がるにつれ（自由に使えるようになるにつれ）、約束を決めている割合が下がっている。

### 考察

調査結果を見ると、リテラシー面においては昨年度までと同様、学年に合わせてほぼ右肩上がりの結果となっており、発達段階と学習内容による必要性に合わせて、順調に定着してきていると言える。また、内容を分析すると、「家庭での経験によって元々できる子ども」ばかりなのではなく、「学校における学習経験や指導によってできるようになった子ども」も明らかに増えてきていることが見て取れる（質問1, 4, 5）。今後も学校や学年間、あるいは学級間のデバインドを生じさせないように、系統的に指導することが重要である。

ある程度順調な伸びが見られるリテラシーの実態に対し、家庭における IT 環境の実態と情報モラル育成においては、課題が見える結果となった。

家庭における IT 環境の普及（コンピュータ約 80%、インターネット約 65%）に伴い、児童生徒が家庭で IT を利用する時間が増加している。特にインターネットに関しては、学習に関する情報収集のほか、ネットゲームや電子メールなどの利用実態がわかっている。しかし、そのような状況でありながら、子どものインターネット利用に関し、必ずしも保護者の監督が行き届いているとは言い難い状況がある。特に、「いつでも自由に使える」と回答している割合が高くなる小学校高学年から中学校においては、逆に約束を決めていない家庭が多くなっており、ネットワーク社会に対する家庭の認識不足がうかがえる（質問9, 質問11）。またここ数年、子ども自身の情報モラル定着に関する数値が、比較的低いレベルで頭打ちになっている状況を見ても、このことを大きな課題と捉える必要がある。

急速な発展に伴い利便性が向上するネットワーク社会だが、自由な自己発信ツールとしてのブログや、小学生にまでも広がりを見せる株のネット取引など、一方で児童生徒の生活に少なからぬ影を落としている。こうした中、学校においては、情報モラルに関する指導計画を強化し、学校を上げて本格的に指導に取り組む必要が迫っている。

学校で情報モラル教育を推進するためには、教師自らが主体的に情報社会に関与し、その動向を正しく把握することを通して、情報モラル指導の重要性について再認識することがまず求められる。その上で、児童生徒が IT 環境をよりよく活用し、学習に効果的に活かすための実践力を育てることを基本に、ネットワーク上で身を守る心構えや姿勢、危険を上手に回避するための知識や手段を適切に指導しなければならない。そのためには、関係機関や専門家との連携も視野に入れながら、より具体的な指導法を研修することが必要である。

しかし一方でこの課題は、けっして学校だけが取り組むことで解決できるものではない。本調査結果などを基に教師と保護者が共に研修する場を設け、情報化に伴う諸課題と子どもの実態についての認識を共有することが必要である。その中で、家庭でインターネットを使用する際の約束の必要性や、状況・発達に合わせた内容の見直しの必要性についての理解を促し、子どもが安全に利用することができる環境づくりに協力してもらうことが重要である。学校と家庭が連携することは、何か問題が発生した場合に相互に相談・対応できる関係づくりにもつながるものと期待される。

\* 本調査結果については、総合学習センターWebページ内「教育研究所」にすべて掲載していますので参照くださるようお願いいたします。